

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	南川 茂樹
調査研究課題	間伐材の需要を促すため、木育の観点から素材を活かした遊具デザインの研究					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	南川茂樹	デザイン学部・准教授	造形デザイン 遊具デザイン	素材研究・構造研究 デザイン全般	
調査研究実績の概要	<p>針葉樹を有効に活用することで、森林の回復に貢献できるよう、2007年より針葉樹を用いた家具や空間表現を提案してきた。家具では、針葉樹の強度不足による欠点を構造で補うデザインで克服し、新たなデザイン提案ができた。空間表現では、針葉樹の持つしなやかさを生かし、板を湾曲させてダイナミックな造形表現で効果を得た。また2010年では、針葉樹の通直な木理を活かして、その木目を枝振りで見立てたツリー形のプロダクトを提案し、2011年の提案は、2008年に発表したWAFFLE STOOLの展開であるTriStoolでスツールの完成形を得、2012年度の提案は、カフェ空間をすべてプロデュースするというものだった。そして、2013年度は、間伐材の歩留まりがよい寸法の板で構成する現代の室内空間を提案した。そして、昨年度の提案は、プロダクト提案に留まらず、間伐材のひとつであるヒノキの素材そのものに着目し、肌理・香りなど身体感覚に訴えかける要素をテーマにデザイン研究し、美術館での展示作品を発表した。</p> <p>そして、今年度は、間伐材であるヒノキを使用して、遊具をデザイン・制作した。その遊具とは、木馬のような形状をしたロッキングする遊具である。敢えて木馬と称さないのは、板材の組み合わせによって、具象形態でなく遊ぶ側が見立てる猶予を残しているため、馬として限定をしないからである。</p> <p>今回使用した材も、岡山県西粟倉村の株式会社 西粟倉・森の学校の協力を得て、すべてそこから調達したヒノキの間伐材である。間伐材でも容易に提供できる幅100mmをモジュールとし、節があっても強度に影響がない積層という構造にし、それぞれの欠点を克服している。使用に影響がない部分に節を配し、アクセントとしても、あるいは間伐材である証拠としての表現も担っている。</p> <p style="text-align: right;">次頁に続く</p> <p>その形状は、従来の木馬とはデザインを異にしている、上記の特注を活かすべく積層による構成でデザインし、合計5種類のロッキングアニマルを制作・デザインした。</p> <p>年齢によってサイズを異にし、いちばん小さなサイズには1才の乳児でも乗ることができる。積層構造により、下部に重量があるため、転倒することはない。また、この構造によって強度が増し、座ることができれば大人でも十分乗ることができる。実際に100kg超の大人でも、乗ることが検証できた。</p> <p>企画展「ヒノキノヒ 南川茂樹 展」で、展示発表した。会期中実際に乗ることができ、様々な人に体験してもらい意見をもらった。1才の乳児から大人まで、会場で検証ができ、改めて構造やデザインに水準以上の成果を得た。</p> <p>子どもの頃から木に触れ体感できることは、情操教育にも役立ち、自然素材の大切さや環境面への関心を高めることに効果がある。</p> <p>間伐材でつくられていることを強調するのではなく、デザイン面で訴求し、ユーザーがその点を評価し求め、結果として間伐材利用に貢献していることになることが、この提案</p>					

の狙いである。環境に関心のあるユーザーばかりでなく、一般の人にも広く普及し、間伐材である針葉樹の需要が拡大することが、森林の再生に一助になることを願う。

出典

「ヒノキノヒ 南川茂樹展」

会期：2015年10月1日～14日

会場：日本郷土玩具館プラスワンギャラリー



RA ver. H (2015)